

みえ ケアマネ通信

一般社団法人 三重県介護支援専門員協会

〈事務局〉
〒514-0003 三重県津市桜橋 2丁目131
三重県社会福祉会館 1F
編集：広報部会
電話 059-213-7766
FAX 059-213-7765
<http://mie-cma.com/>

〈発行者〉
一般社団法人 三重県介護支援専門員協会
会長 奥田隆利



一般社団法人 三重県介護支援専門員協会
会長 奥田隆利

「平時からの医療機関との連携促進」

会員の皆様方おかれましては、当協会の活動に、ご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

一月十三日、当協会主催による研修会に参加いたしました。講師には、三重県薬剤師会会長の西井先生をお招きし、「医薬分業」の本来の目的や「かかりつけ薬剤師制度」、そして薬剤師の在宅業務について詳しくご教授いただきました。患者様へ安全な薬をより適正かつ適切に提供するために、服薬情報の一元的・継

続的な管理や二十四時間の対応、そして医療機関等との連携のため、退院時のカンファレンスやサービスマ担当者会議への参加も重要な業務として位置付けていただいているそうです。私が勤務している松阪市の地域包括支援センター主催する地域ケア会議にも薬剤師の先生方が複数名参加してくださいっています。薬局も薬剤師の先生方も地域包括ケアシステムの構築と推進のためご努力いただいていると強く感じることができました。

更には、講義の中でご説明いただいた、「ポリファーマシー」という概念は、高齢者が陥りやすい多剤処方の問題点について、改めて介護支援専門員としてしっかり学習しなければならぬと痛感いたしました。また、現在十分に活用されているとは言えない「お薬手帳」については、平時や災害時等、利用者様の生命と生活を守るうえで、一つの社会資源として非常に重要であると感じたのは私だけではありません。また、確信しています。今後、薬剤師の先生方に、可能な限り正確な情報をお伝えし、助言指導をいただくことは利用者様の生命と生活を護り、住み慣れた地域で自立した日常生活を送っていただくために重要であることを再認識することができました。

今後はさらに、当協会におきましても各支部と連携し、医師会様を中心に医療・介護・リハビリテーション、及び障害者福祉関係機関や職能団体の皆様と多職種連携を深めるための研修事業に努めて参ります。

平成29年度

東海ブロック研修会in愛知

「地域共生社会を実現し、地域包括ケアをすすめるためのケアマネジメント」

平成30年1月14日(日)
名古屋商工会議所 2階ホール
参加者：224名

基調講演

「二〇一八年介護保険改正と介護支援専門員の求められる役割」

講師 厚生労働省老健局振興課
課長補佐 佐藤美雄氏

冒頭、介護保険を取り巻く状況について各種データに基づく説明がありました。次に介護保険法の一部を改定する法律案では、①自立支援・重度化防止に向けた保険者機能の強化②医療・介護の連携の推進③地域共生社会の実現を3つのポイントとして掲げている中で、自立支援は、介護保険法の理念であり重度化防止は医療との連携が欠かせないとし、新たな介護保険施設として介護医療院が創設されました。「我が事・丸ごと」包括的支援体制作りでは、新たに共生型サービスの位置付けがなされる等、解説がありました。

次に、第七期介護保険計画に向けて「ケアマネジメント支援」の全体像を示し、ケアプラン点検の取組事例や地域ケア会議の機能により介護支援専門員の専門性が発揮できる土壌の整備がなされると述べられました。

ケアマネジャーの現状と課題のテーマでは、介護保険法の目的の再確認をしました。現在ケアマジヤールの資格取得者は十七万人おり、利用者より担当ケアマネジャーに対して「信頼している」が八割近くであるとのこと。平成二十五年一月のあり方検討会でのケアマネジャーの課題を示し、資質向上に向けた取組として、研修制度の見直しと修了評価の導入について話されました。

最後に、十二月十八日付社会保険審議会介護給付費分科会介護報酬改定に関する審議報告の内容を解説され、詳細については今後もこのような機会を頂きお伝えしていきたいと述べられ講演を終了いたしました。

分科会報告



倉田副会長と一路さん

第一分科会は三重県が担当で障害者制度についてでした。

座長の倉田副会長の「地域共生社会」についての解説の後、伊賀支部の一路さんの事例発表とグループワークを行いました。他県の参加者も多く四月からの介護保険での「共生型サービス」については知識も乏しい為実際にかかわっている方の発表は気付きが多かったのではないのでしょうか。障害者の相談支援専門員の方と良い連携をとり、その人にとって良い支援を行うかが課題だと感じました。

第二分科会は「地域包括ケア時代」の中、本来のリーダー活動（人作り・地域作り）を目指し、スーパービジョンの手法を活用し地域全体の向上に繋げよう。を共通認識として分科会が行われました。

た。スーパービジョンをちょっとしたきっかけからでも始めて行くことが大事なことである。とのまとめでした。

第三分科会では「認知症の支援と地域連携」の表題にて、富士宮市の認知症に対する取り組みの事例をもとに、これからは地域とどのように関わっていくか等を皆で検討しました。

第四分科会では、「介護支援専門員の業務評価の方法を学ぶ」について、発表者より評価の定義と方向を示すプランニング、PDCAサイクル等の説明がありました。グループワークでは「目標となる指標」「業務評価について」活発な意見交換をしました。



国への架け橋

三重県介護支援専門員協会理事
(総務部会長) 山田 剛

平成二十九年十一月十七日(金)
東京で「日本介護支援専門員協会
組織・会員担当全国会議」が開催
され、当協会を代表して出席をい
たしました。

会議のテーマは、会議名の通り各
都道府県協会の組織や運営、会員
数の拡大について意見・情報交換
や共有を図るものです。その中も
特に重要なテーマとして扱われて
いたのが、都道府県協会と日本協
会の組織の一本化です。一本化と書
いても、何のことかわかりづらいか
もしれません。一本化とは都道府
県協会と日本協会の同時加入を条
件付けるということです。ご承知の
通り、当協会は設立時から日本協
会との同時加入が条件になってい
ますが、全国には当協会のよう
な体制が整っていないところも多
く、そのために非常に苦労をされて
いることもあるようです。例えば、
ある協会は、県協会単独加入の会
員数は当協会の会員数(約千二百
名)よりもずっと多いのですが、そ
うち日本協会と同時加入している

のは十分の一に満たないといった
例です。このような協会が、今後一
本化を果たすには相当な困難を伴
うと思われれます。

当協会にもまだまだ多くの課題
はありますが、それでも当協会の
会員数は設立以来着実に増加して
おり、その組織率は相当に高いも
のです。県内で介護支援専門員と
して現に働いている人の正確なデ
ータはないのですが、県内にある
事業所の定員から割り出すと三千
名には満たないそうです(もっとも、
これは常勤換算数ですから、非常
勤等で実数はもう少し増える可能
性があります。倍にもならない
でしょう)。それならば、千二百名
の会員数というのは、現役の介護支
援専門員の実に三人に一人以上が
会員ということになります。当協
会がこのような好成績を上げてい
るのは、役員の尽力と会員のご理
解・ご協力があったこと。今
後も各都道府県協会と切磋琢磨
し、当協会の優れた点については積
極的にアピールしてまいります。

災害対策机上訓練



十二月九日(土)に南志支部の
主催で、『災害発生時を想定し
た、災害対策机上訓練』が支部研
修会として開催されました。

この研修会は、日本介護支援
専門員協会が行っている「災害支
援ケアマネジャー」としての研修
を修了した、桑員支部の小林氏、
津支部の倉田氏、松阪支部の川
村氏が講師となって進めました。

災害対策机上訓練というテー
マで想像がつくように、実際に大
規模災害が発生したという想定
で、架空の、居宅やデイ、特養な
どのサービス事業所、包括、行政
などのそれぞれの役割におかれ

た人がどのように動くべきかと
いうことについて、体験を通して
学ぶ、グループシュミレーションで
す。普段の研修会とは趣がかな
り異なります。

私たちがケアマネジャーの普段の
業務は連携が重要ですが、災害
時でも、それは同じです。また、
災害時においても、情報の収集
と発信が重要になります。

総会でお示した通り、当協
会においても、防災活動の取り
組みを始めることになりました。
防災委員会も立ち上がり、災害
発生時を念頭に置いた活動も始
めています。

机上訓練をやってみたいとい
う支部の方は、ぜひ事務局まで
ご連絡ください。



支部
だより

各支部からの活動報告

あれこれ

桑員支部

会員数 189名

0594-75-0302

支部活動の組織機能について紹介をします。私は、県協会の県理事と支部長分離の方針を受け、支部活動に支点を置き支部長に就いて4期目になります。初めに取り組んだのは、支部活動の分業です。支部長・副支部長二名、総務・研修・広報の部会（部長・副部長・委員）をおき実働できる組織・負担の分担で一人に負担が偏らないようにすることでした。次の取組は、「見えるか化」です。各部会は、委員の交代（二年毎・再任可能）があっても活動が継続されていくように、マニュアル作りに取り組んできました。マニュアルは、新部会ができると思直され進化しています。

会員との双行性のコミュニケーションを心がけ、仕事をする上で時の変化を正しく取り込み、利用者に不利益にならないように支援をする



責務を果たせるように、また、介護保険・医療保険の改定でますます苦手な分野も広がっていくことでしょうか。少しでも広い視野で利用者にと会員と共々に活動を深めていきたいと思っています。

三河支部

会員数 165名

059-365-6215

三河支部は、四日市市・菰野町・川越町・朝日町の一市二町に勤務又は在住する介護支援専門員を会員として、年間六回の研修会と交流会を企画し活動しています。

今年度は、防災や薬の知識、警察との連携、認知症初期集中支援チームの活動など、多岐に渡る内容を企画しました。警察との連携をテーマにした研修会では、認知症高齢者の行方不明時の対応や、改正道路交通法の内容、運転免許証の返納など、警察と連携する上でのポイントなどを教えて頂きました。また、介護支援専門員として事前に対策していることについても情報交換する機会となりました。

今後も、会員の資質向上と連携



を図るための研修会や交流会を企画し、活発な支部活動をしていきますので、是非ご参会いただきたいと思います。

鈴亀支部

会員数 122名

059-370-3751

鈴亀支部では、十月三日（火）鈴鹿市文化会館けやきホールにて、支部設立十周年記念介護の日市民公開講座を開催しました。講師に、慶應義塾大学教授であり社会保障審議会介護給付費分科会委員もされてみえる堀田聡子先生をお迎えし、「私の暮らしとこれからの社会」年齢を重ねても、住み慣れた場所で暮らし続けるために「〜」をテーマにご講演頂きました。当日は一般の方、専門職を含め二百名の方の参加がありました。参加された方々から「地域社会の中で、自分がどういう生き方が出来るのか、自分の生き方の視野が広がった」、「いかに良い死に方をするかは、いかに良い生き方をするかに通じるという話に共感しました」との感想を頂き、これからの地域包括ケアを考えるうえで意義ある講演会となりました。



津支部

会員数 161名

059-266-0800

津市に在住、または勤務している介護支援専門員を会員として活動し、現在会員百六十一名です。日頃から研修や活動を通じて、介護支援専門員同士顔の見える関係作りを目指しております。

津地区でやむを得ない事情により介護支援専門員が急にならなくなった事業所ができ、利用者のケアプランがスムーズに引き継げるように会員同士のネットワークを活用して支援をしたということがありました。日頃の関係づくりの大切さを思い知った出来事でした。このように、事業所の垣根を越えて、介護支援専門員同士の支援ができ、支え合い高め合う関係が築けるような支部づくりを、会員の皆様と共に考えていきたいと思っています。

支部の研修に参加したことがない方はぜひお気軽にご参加いただくと嬉しいです。



松阪支部

会員数 310名

0598-48-2600

今年度の松阪支部は、計十回の研修会に加え、松阪市健康フェスティ

バルへの出展、松阪市および多気郡三町との合同意見交換会、圏域内全病院にご協力をいただいた「病院連携一覽表」の更新など、まさに「理事全員で駆け抜けた」一年でした。

九月十日（日）の松阪市健康フェスティバルには約四百名もの来場者があり、高齢者疑似体験、介護相談、クイズを実施し、支部特製工コバックを配布するなど協会のPRを行いました。

十月五日（木）の多職種連携研修会では、医師を含む九十八名の非会員の参加を得て、総勢百八十名で「在宅における自立支援を指して」についてグループワークを行いました。HPも充実しております。是非ご覧ください。



南勢志摩支部

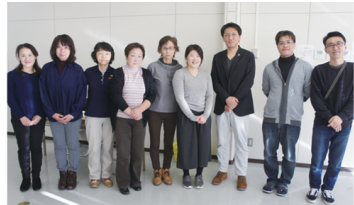
会員数 170名

now2just7relax@yahoo.co.jp

南勢志摩支部は今年度も四回の研修会を開催しました。第二回の研修会は「ケアマネジャーの災害支援」と題し、大規模災害の発生に備えた平常時の備えについての講演と、災害発生時を想定した災害対策机上訓練を行いました。身近に起きうる危機という事で関心も高く、多数の方が出席されました。その他にも、著名な講師や地域の医療機関にご協

力頂き実のある研修会が開催できたと思えます。今後も、会員の皆様の声を聴きながら、運営していきます。

最後に、南勢志摩支部の皆様へ。支部広報誌「南志の風」は今年度号をもって、一旦休止致しますので、今後は県協会のホームページ内にある支部案内のページも活用ください。



伊賀支部

会員数 44名

0595-52-1583
eminosatou@arrow.ocn.ne.jp

伊賀支部では現在四十四名の会員が所属しています。しかし活動がスムーズに進まず悩んでいたところ、今年度は三重県協会から「三重県協会の研修を伊賀で行いましょう。」とお声掛けをいただき、無事に開催をさせていただくことができました。その研修もあり、非会員の方も協会への関心を示してもらったことができおり、会員の確保や活動の幅も広がるのではないかと期待をしています。

そんな中で、現在伊賀市、名張市の介護保険担当課と協議を重ね「居宅介護



支援事業所の市町への権限移譲についての定期的な意見交換会」について進めています。こうした意見交換会などを含めて介護支援専門員にとって有意義な会になれるように今後も努力してまいります。

紀北支部

会員数 26名

mie.kihoku.cmn@gmail.com

私たちが活動する紀北（きほく）地区は県の南部、東紀州に位置しており、二十六名の会員で活動を行っています。今年度は「地域包括ケア」「地域連携」をテーマに、二回の研修会を計画しました。



第一回は「精神疾患への理解を深める」（講師：三重大学医学部看護学科松枝桂子氏）、第二回は「在宅医療と介護の多職種連携研修会」お菓の事で、困った事はないですか？」（講師：四日市薬剤師会 藤戸健司氏・平岡伸五氏、尾鷲保健所・紀北薬剤師会との共催）を開催し、第二回目の研修会を年度内に企画しています。グループワークでは意見交換も活発に行われ、多職種連携の視点で日頃の課題や想いを参加者で共有できる場となりました。

これからも地域に根ざし貢献できるよう活動を続けていきます。

紀南支部

会員数 33名

059-213-7766

紀南支部ではこれまで、多職種との連携を中心に、紀南地域包括ケア研究会「いこう」等と協働して活動してきました。



本年度は医療と介護の連携をテーマに、地域の中核病院である紀南病院の濱口政也医師と森本真之介医師を招いて、「地域中核病院とケアマネジャーとの連携について」の勉強会を開催しました。日頃は多忙で話を聞く機会の少ない中核病院医師から、これからの病院の取り組みや在宅診療の問題点等について話を聞かせていただきました。勉強会の後には懇親会を開催し、両医師との懇親会を深めることができ、顔を知る関係づくりに繋がりました。

なお、今回の勉強会・懇親会是非会員の方にも参加を呼びかけ、支部の活動を知ってもらう機会とさせていただきますました。これからも支部会員だけでなく地域全体の資質向上や交流の場として貢献できるように活動していきたいと思えます。

視点を改めて
前進を

居宅介護支援たまたき
田矢千栄子

「ステキな笑顔になれない」

福祉との出会いは四十六歳、ヘルパーからのスタートでした。「土曜日に休める」「人に優しくしても恥ずかしくない」というのが動機でした。夫の父の死去で大阪から祖母、母と同居が始まり、地元慣れるために始めたボランティア活動のために社協に就職。所が今まで経験した芸能プロや外為銀行など優しさとは縁遠い世界とは違い、苦戦の毎日。同期で障害施設経験者の女性はいつもすてきな笑顔でしたが、私には無理でした。一緒に働くうちにその笑顔の理由が判りました。

「その人を好きになる」

それは、「ご利用者の人生観や価値観に添うことだったのです。当時は研修の機会に恵まれていて今も心に残る言葉が数々あります。「傾聴・共感・受容」「クールな頭脳にホットなハート」「信頼を作るには時間がかかるが、失うのは一瞬」これはい

までも実践している言葉です。言葉通り努力しました。ところが徐々に笑顔がなくなりました。

「うつ病になった」

介護保険が施行され、帰宅が毎晩遅くなり、朝目覚めると涙がこぼれ、仕事に集中できず家事も中途半端で崖っぷちに立たされたような毎日。家族には心配をかけてしまいました。ちよつと更年期でもあり完璧にしようと自分一人を取り込んでいました。悩みましたが思い切って退職。半年間のパソコン学習終了後、五十四歳にして特養の介護職員に。日勤だけではその人の事は理解できないと夜勤も経験。走りだすと何故か止まらない性格です。続けたいたボランティア活動（外国人のための日本語教室）も早や二十四年目、日系ペルー人のケアマネも関わりました。

「うつ病は消えた!」

定年退職後、心理カウンセラーを学び、交流分析・認知療法などを学びました。定年後新設の居宅に誘われ現在七年目。利用者や家族との関わりは、やはり心に添う事です。悩みや不安を抱えている方に加藤諦三



田矢氏は一番左

氏の言葉「変えられる事は努力して変える。変えられないことは諦めて受け入れる」を提案することがあります。「具体的に何が悩みか書き出してみて一つでも解決すれば消去。きつと光を見出せる」「人の悩みは、出来事や他人の言動で起きるのではなく、自分がどう受け取ったかによって影響される」「認知（論理）療法」人の話を聞くうちに自分を認めコントロールできるようになったのです。自分の「こころのくせ」を理解すれば解決は簡単。自分が心地よければ周りも心地よい。訪問時はプラスの言葉を投げかけます。否定的なことは話しません。

「研修は栄養剤」

先日も当協会主催「口腔ケアの大切さ」の研修を受講。口腔・嚥下・腸内環境などのメカニズムについて学びました。訪問と記録に追われる毎日ですが研修を受けて自分の仕事が明確になる事が多いです。ぼつぼつ「加齢に伴って…」と言いたい所ですが過去の経験に感謝し、もう少しプラスの言葉を振りまく事にします。

information

ケア
マネ
コ
ラ
ム

ただいま介護支援専門員実務研修の真つ最中です。平成二十九年度の三重県の合格者は四百二十八名、合格率にして二十二・一パーセントだったそうです。調べてみると、合格率が二十パーセントを超えたのは平成二十二年以来久しぶりのことなんです。ちなみに、昨年度は、二十一パーセントと試験が始まって以来最低の合格率でした。

会員のみなさまの周囲に新しく介護支援専門員になる人がいたら、当協会入会を是非お勧めしてください。私たちのネットワークをもっと広げるために!

○事務局だより

研修会についてご案内致します。お申込みはFAXにて先着順での受付となります。当協会ホームページや同封の研修会案内でご確認いただき、お早目にお申込み下さい。やむを得ずご欠席される場合は必ずご連絡をお願い致します。

三重県介護支援専門員協会ホームページ
<http://mie-cma.com/>